

# 聖籠町生涯活躍のまち構想研究会報告概要

## 1 研究会立ち上げ趣旨

将来的な町の人口規模を維持するための方策の一つとして、「生涯活躍のまち」構想の実現可能性について調査・研究する。

## 2 研究会で取り扱った主な内容

- ・ 国内先進事例の研究
- ・ 町の福祉の動向分析
- ・ 東京圏・県内在住者に対する、移住希望アンケート実施
- ・ アンケート結果を基にした、ターゲット等の分析
- ・ 構想実現に係るメリット、デメリットの検討
- ・ 住民シンポジウムの開催
- ・ 「生涯活躍のまち」に関する住民アンケート実施
- ・ 聖籠町版「生涯活躍のまち」が目指すべき方向性の検討

<研究会開催実績：平成28年3月～平成29年3月の間、全7回研究会開催。住民シンポジウム1回（H28年12月開催）>

## 3 聖籠町版生涯活躍のまち構想の方向性

### 【基本コンセプト】

#### ① 「地域包括ケアシステム」を中心とした生涯活躍のまち

移住希望者における「地域包括ケアシステム」を重視する割合の高さ、新潟聖籠病院開院をはじめとする医療・介護関連施設の充実を踏まえ、聖籠町版生涯活躍のまちには、「町内外の高齢者が安心できるまちづくり（地域包括ケアシステムの構築）」を基本コンセプトに据える。

#### ② 若者、ファミリー層、高齢者が「多世代共生」する生涯活躍のまち

聖籠町への移住に前向きな人々は、新潟県内在住者では30歳代、東京圏在住者では20歳代の割合が高い。また、シニア層だけを対象とした「生涯活躍のまち」では高齢化を後押しすることになりかねないため、若い世代の転入と定着を促すものとする。

#### ③ 交流機能を導入し、地域に開かれた生涯活躍のまち

地域に活力をもたらすものにするため、聖籠町版生涯活躍のまちには交流機能を導入し、地域に開かれたものとする。



【住民アンケート結果の概要】 H29年1月実施 20代～70代1,000人対象（回収率37.1%）

- ・「生涯活躍のまち」構想の認知度⇒ 高い年齢層ほど認知度が高い<認知度40%強>
- ・構想の関心度⇒ 高い年齢層ほど関心度が高い<関心あり52%>
- ・構想に期待すること⇒ 特に高い年齢層において医療・介護面に対する充実を重視する
- ・構想で懸念すること⇒ 年齢層が高く、関心を有する方ほど高齢化の進行や介護保険料の負担増を懸念する
- ・構想の取組への希望⇒ 年齢層が高く、在住年数が長い方ほど取組に肯定的な意見が多い  
<構想の取組に対し、肯定的意見が41%、否定的意見が12%>



## 4 聖籠町における「生涯活躍のまち」の具体像

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が平成28年4月に示した「「生涯活躍のまち」構想に関する手引き（第3版）」に基づき、聖籠町における「生涯活躍のまち」構想の「入居者」「立地・居住環境」「サービスの提供」「事業運営」について具体化した。

### ① 入居者

- ・働き手（現役世代）  
新潟東港工業地帯に集積する産業、新潟市に通勤可能な立地環境といった地域特性を活かす。
- ・子育てファミリー層  
町の充実した子育て支援を活かし、子育てファミリー層の入居を促すことが望ましい。
- ・元気なシニア層  
医療機関や介護事業所の集積を活かし、高齢者が安心して暮らせる地域包括ケアシステムの構築し、町内外から「元気なシニア層」の入居を促進
- ・ボランティア活動や地域活動に関心ある学生  
JAPANサッカーカレッジや周辺地域に立地する大学の学生が居住する地域特性を活かし、ボランティア活動等に関心のある町内外の学生の入居を促進

### ② 立地・居住環境

- ・医療機関との連携を訴求できる立地  
新潟聖籠病院を中心として地域包括ケアシステムを構築し、病気になっても心強い「生涯活躍のまち」としていくことが必要
- ・町民の交流しやすさ、通勤・通学の便に優れた立地  
現役世代や学生にとって通勤・通学しやすく、町内各所からのアクセス性に優れた、交流しやすい場所に「生涯活躍のまち」を築くことが望ましい。
- ・将来の拡張性を備えた立地  
将来的に入居希望者が増える可能性に備え、拡張性を備えた場所に「生涯活躍のまち」を築くことが望ましい。

### ③ サービス提供

「生涯活躍のまち」に関しては、以下のサービスを提供することが望まれる。

- ・住み替えサービス
- ・就労支援サービス
- ・子育て支援サービス
- ・地域活動紹介サービス
- ・交流機能の提供

### ④ 事業運営

- ・民間主導の事業運営・・・行政主導による開発ではなく、民間事業者が中心となって施設整備及び施設運営を行うべき。
- ・核となる事業主体の確保・・・構想について実現可能な事業スキームを検討し、核となる民間事業者を募ることが必要
- ・多様なサポーターの参画・・・「生涯活躍のまち」が町民の活躍の場となるよう、運営サポーターや交流プログラム提供の担い手の参画を促すことが必要

## 5 町が今後検討すべき課題

① 住民との協議

② 地域包括ケアシステム構築に向けたさらなる検討

③ 交流施設の検討

④ 住み替え支援体制の整備に向けた検討

⑤ 就業支援体制の整備に向けた検討

⑥ ファミリー層の転入促進に向けた子育て支援体制の整備に向けた検討

⑦ 地域活動への参画や生きがいつくりの支援体制の整備に向けた検討

⑧ 事業用地の選定

⑨ 事業スキームの検討

⑩ 事業主体の検討